(1) 土地・気象

1. 岐阜県の地勢

本県は本州のほぼ中央にあり、海に面しないが3千メートル以上の山地から海面に近い平野まであり、古来「飛騨濃水の地」といわれる。すなわち、県の北部および東部の大部分は山地で、南部に飛騨平野の一部がある。美濃平野がある。山地は周辺の県境で高く中央から南部に低い。東部県境は飛騨山脈で、その北部の3千メートル以上の険陪な山々は、日本本土山岳であり、北部山岳、南部山岳等の火山がある。西部県境は加賀山地、美濃越前山地、鈴鹿山地等で2千メートル前後の山が続き、北部は白山、大日岳等の火山をなす、南部に伊吹山等がある。また美濃越前山地附近では断層が刻まれて不規則な山塊をなし、根尾谷は活断層で有名である。この東西県境の高い山地の間際に、それぞれ一帯と低い飛騨高地、美濃高原があり、北部より南部へ高さと起伏を減じながら愛知県で終わっている。

地質構造上からは、岐阜県は中部西南日本の内陸に入るので、その特徴として古生層や花崗岩で覆われているところが広い。すなわち、加茂郡から西方の美濃山地の大部分および飛騨東部は秋田古生層であり、東濃地方から加茂東部、益田、大野、吉原の各郡は花崗岩岩層が周囲に広く覆われている。その他は、中世の竹貫紀年が北西県境と吉川附近の山地に分布、三の塊をなし、新生代の第三紀層は東濃地方および可児、加茂の各郡で発露、北飛騨の一部に見られる。

広い山地は未曾有な河川の涵養地で、ほぼ乗鞍岳、位山、大日岳等の山と結んだ山地を分水界として、長大な河川を太があったが日本海側に注いでいる。日本海には宮川と高原川が神通川となり、また利川が伊吹川となってそぞろ。太平洋へは長野県から発する木曽川に飛騨川が合流し、長良川、掛川等の大河川ともに飛騨平野に集って伊勢湾にそぞろ。これらの河川は山間地や中流域の隆起地帯で谷を深く刻んで峡谷をなし、現在は発電に開発され、日本中の電源地帯となり、景勝地となっている。

美濃平野は大部分が沖積平野で、北部に各務原の如き沖積台地を附し、西方は急な山地で限られ、その間数小扇状地を附している。沖積地の北部はゆるい傾斜の扇状地で、南部は平坦な三角洲で木曽、長良、掛川等の河川の埋積によるものであって、地味は、きわめて肥沃にして一大穀倉地帯を形成している。扇状地では排水がよく、河川の河床は比較的浅く細が多い。三角洲では排水が悪く、河川の流れはゆるやかで、河床は深く砂礫で覆われ、河川の影響を受ける。扇状地の末端の塚附近では「ガマ」と呼ぶ洪水地帯があり、平野の小河川の源となり、三角洲地帯は地下水も豊かで、掘抜井戸も広く分布している。